

子どもの周りの禁煙に。

—さわやかな空気を子どもたちへ—

たばこはこの煙に含まれるニコチンや一酸化炭素、タールなどは、喫煙者が吸う煙よりも、たばこの先から出る煙に多いことをご存じですか？また、たばこの煙は7m先まで到達し、数人で喫煙すればその距離が2〜3倍以上になるといわれています。子どもたちへの影響などについて、一緒に考えてみましょう。

子どもの周りの喫煙は危険

自分の意思とは関係なく、周りのたばこの煙を吸ってしまうことを「受動喫煙」といいます。子どもが受動喫煙にさらされると病気になる危険性が高くなります。子どもは、自ら受動喫煙を避けることができません。守ってあげられるのはお父さん、お母さんなど周りの大人です。



影響はおなかの中から

妊婦本人や、その周囲の人がたばこを吸うと、ニコチンの作用により胎盤や赤ちゃんの血管が収縮し、酸素や栄養が十分にいきわたらなくなります。低体重出生や早産、SIDS（乳幼児突然死症候群）などの危険性が高くなります。

妊婦や子どもを守ろう

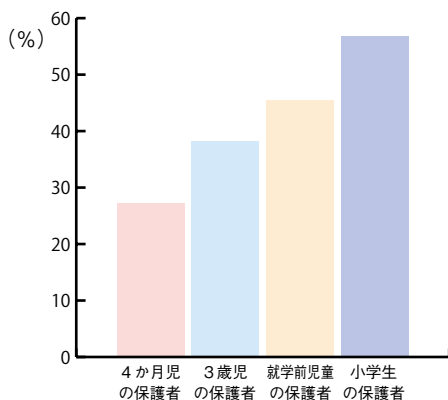
次のことに気をつけましょう。

❖家庭内では吸わないで



換気扇の下で喫煙しても、煙は室内に残ります。

●屋内喫煙している保護者の割合（喫煙者中）



最近の喫煙の動向について

田原市が本年度実施した市民アンケート調査によると、男性の喫煙者は減少しているものの、女性の喫煙者が増えています。また、子どもが大きくなっていくに従い、屋内で喫煙する家族が増える傾向にあります。



健康課 ☎23局3515